

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ごうどうがいしゃのりしげのりひでのかい		
	制作団体名	合同会社則重則秀の会		
	代表者職・氏名	代表社員 石井則秀		団体ウェブサイトURL
	制作団体所在地	〒 153-0043	最寄駅(バス停)	池尻大橋
		東京都目黒区東山2-13-5-304		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	おおくらりゅうきょうげんやまもとかい		
	公演団体名	大蔵流狂言山本会		
	代表者職・氏名	山本東次郎		団体ウェブサイトURL
				https://www.kyogenyamamoto.com/index.html
	公演団体所在地	〒 166-0012	最寄駅(バス停)	中野富士見町
		東京都杉並区和田1-55-9		
	制作団体 設立年月	2024年12月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表社員 石井則重 石井則秀	狂言師2名 事務局員2名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	石井則秀
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	石井則重
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		shigehide.kyogen@gmail.com		09046041916

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>【合同会社則重則秀の会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1911年(明治44年)1月 山本舞台(杉並能楽堂の前身)の完成披露狂言会を機に二世山本東次郎(1846-1935)によって任意団体「山本会」創始。現在まで毎年2回の自主公演を主催。 ・1946年(昭和21年)5月 三世山本東次郎(1898-1964)により全国の児童学生を対象とする巡演を開始。狂言を通して若者たちに日本の古典文化の真髄を伝えていくことを悲願とし、その活動が認知され、能・狂言辞典((株)平凡社出版)に「三世則重(東次郎)は、狂言の青少年層への普及を意図して全国の学校巡演に先鞭をつけ、また積極的に推進し、これは四世東次郎則寿にも受け継がれて、東次郎家の特色となっている」と掲載される。 ・2006年(平成18年)6月 任意団体「山本会」の活動を継続・発展させるために、合同会社大蔵流狂言山本事務所として法人設立。現在は四世東次郎(人間国宝)を中心に、狂言の普及、後継者の育成に努める。 ・2017年山本会のメンバーである山本則重・山本則秀兄弟による、わかりやすさ親しみやすさをモットーにした狂言普及公演(任意団体)「則重則秀の会」を発会。「0歳から楽しめる狂言会」など、年齢制限を設けない工夫をして見巧者だけでなく、若い世代にも目を向けた公演を実施。横浜こども狂言ワークショップや川崎こども狂言ワークショップなど、子供向けのワークショップの主任講師を担当。 	
	学校等における公演実績	<p>1946年(昭和21年)5月より学校公演実績あり。年間60～70公演実施。 (直近)</p> <p>令和2年度 「柿山伏」「附子」全国31公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和3年度 「柿山伏」「附子」全国42公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和4年度 「柿山伏」「附子」全国54公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和5年度 「柿山伏」「附子」全国40公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和6年度 「柿山伏」など全国64公演他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。 令和7年度 「柿山伏」など全国50公演(見込み)他ワークショップ、アウトリーチ、教員向け公演開催。</p> <p>弊会所属の狂言師は、東京都立芸術高等学校、神奈川県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の講師を勤めている。</p> <p>子供のみならず、教科書に狂言が掲載されているものの指導に困っている教員のために、狂言の歴史や狂言を子供に教える意図や目的を講義する講座を開き、教員の育成にも注力している。</p> <p>また東京都や任意団体からの依頼を受け、離島や僻地などの公演にも参加。</p>	
	特別支援学校等における公演実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年 佐賀県立盲学校 ・平成13年 宮崎県立赤江養護学校(現・赤江まつばら支援学校) ・平成20年 鳥取県立白兔養護学校・鳥取工業高校合同鑑賞教室 ・平成27年 神奈川県立三ツ境養護学校 ・平成28年 長崎県立島原特別養護学校 ・平成30年 広島県立尾道特別支援学校 ・令和元年 長崎県立虹の原特別支援学校、長崎県立ろう学校 ・令和3年 茨城県立協和特別支援学校、東京都立田園調布特別支援学校 ・令和4年 学校法人愛育学園、長崎県立長崎特別支援学校 <p>演目「柿山伏」「附子」「呼声」「蝸牛」など、先生と密に相談し、児童生徒の状況を見極め、最適と思われる演目を上演します。</p>	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料		
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

一般区分・特別エリア区分共通
No.2(実演芸術)

別添

なし

【公演団体名大蔵流狂言山本会】

対象

小学生(低学年)

小学生(中学年)

小学生(高学年)

中学生

企画名

教科書に載っている狂言「柿山伏」「附子」

企画のねらい

国語や社会の教科書に載っている狂言の教え方に悩む多くの先生方を支援するため、弊会所属の狂言師が本事業を通して児童生徒に「狂言の歴史」や「鑑賞方法」を分かりやすく指導し、楽しみながら学べる環境を提供します。また、「柿山伏」は平成17年度より光村図書出版国語教科書小学6年生用に当家の狂言台本、及び当団体所属の狂言師の舞台写真が掲載されています。教科書で学ぶ狂言を実際に鑑賞し、本物に触れる貴重な機会を提供します。

演目概要・演目選択理由

「柿山伏」は、平成17年度より光村図書出版国語教科書小学6年生用に当家の狂言台本、及び当団体所属の狂言師の舞台写真が掲載されています。また、令和9年度まで継続して掲載されることが決定しています。
「附子」は一休さんのとんち話にもある最もポピュラーな演目で、教育出版の国語教科書小学5年生用に掲載されています

児童・生徒の参加または体験の形態

本公演当日、狂言鑑賞とお話終了後に演者指導の下、ワークショップを行います。初めに児童生徒は発声練習を兼ねて狂言の笑いや泣き方を体験します。大きい声が出るようになったら事前に行ったワークショップで覚えた狂言小謡のおさらいをします。その後、児童生徒だけで狂言小謡を謡い、その謡に合わせて演者が舞います。狂言小謡は簡単な謡なので事前のワークショップに参加できなかった児童生徒も当日のワークショップで覚える事ができ、共演することができます。

児童・生徒の参加可能人数

本公演

参加・体験人数目安

鑑賞者全員

鑑賞人数目安

600名以下

本公演演目
原作/作曲
脚本
演出/振付

・狂言「柿山伏」「附子」
【プログラム構成】
1.狂言「柿山伏」について、あらすじ解説・出演者紹介
2.狂言「柿山伏」上演
3.狂言「附子」について、あらすじ解説・出演者紹介
4.狂言「附子」上演
(休憩)
5.お話「狂言の心」
6.児童生徒との共演
7.質問コーナー

公演時間90分

出演者

・山本泰太郎(重要無形文化財保持者総合認定)
・山本 則孝(重要無形文化財保持者総合認定)
・山本 則重(重要無形文化財保持者総合認定、公益社団法人能楽協会理事)
・山本 則秀(重要無形文化財保持者総合認定、公益社団法人能楽協会東京支部常議委員)
・山本 凜太郎((公社)能楽協会会員)
・若松 隆((公社)能楽協会会員)
・加藤 元((公社)能楽協会会員)
・山本修三郎((公社)能楽協会会員)
※ 体調等の都合により、演者変更がある場合があります。

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名

<山本則重> 能楽師大蔵流狂言方 昭和52年生まれ (故)山本則俊の長男 父及び四世山本東次郎に師事。昭和58年狂言「伊呂波」のシテで初舞台。「三番三」「釣狐」「花子」「射狸」など数々の習い物を披露。重要無形文化財保持者総合認定。公益社団法人能楽協会理事。財団法人杉並能楽堂理事。則重則秀の会代表。
<山本則秀> 能楽師大蔵流狂言方 昭和54年生まれ (故)山本則俊の次男 父及び四世山本東次郎に師事。昭和60年狂言「伊呂波」のシテで初舞台。「三番三」「釣狐」「花子」「射狸」など数々の習い物を披露。重要無形文化財保持者総合認定。公益社団法人能楽協会東京支部常議委員。則重則秀の会代表。

本公演
従事予定者数
(1公演あたり)
※ドライバー等
訪問する業者人数
含む

出演者:5名
スタッフ:0名
合 計:5名

運搬

積載量:t
車 長:m
台 数:台

本公演・ワークショップの内容	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間			時間程度
		到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
		9:15	9時20分～9時50分		10時30分～12時	10	12時～12時30分	12時30分
		※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
	本公演 実施可能日数 目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</small>	6月		7月		8月		9月
		5日		5日		5日		5日
		10月		11月		12月		1月
		5日		5日		5日		10日
		※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		45日
	公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) <small>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載し</small>	1枚目: 体育館ステージを使用。鏡板の幕を吊った様子。 2枚目: 狂言「柿山伏」上演の様子。 3枚目: 狂言「附子」上演の様子。						
								
								
著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否			該当なし	該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合	権利者名		許諾確認状況				

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 大蔵流狂言山本会 】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	本ワークショップは、児童生徒の表現力と想像力を養うことを目的としています。狂言は「セリフ」と「仕草」のみで進行する対話劇で、照明や舞台道具がほとんど使われないため「演者の表現力」と「観客の想像力」が重要な要素です。この特性を活かし、狂言クイズを通じて児童生徒の想像力を鍛えます。クイズは班ごとのアクティブラーニング形式です。意見交換を行うことで、異なる価値観の理解や他者を尊重する姿勢を学びます。また、「型」と呼ばれる規則的な所作を学び礼節を身につけるとともに、プロの狂言師による指導を通じて動きや発声を学び、表現力の向上を図ります。主任講師の山本則重、山本則秀も小学生の子を持つ親で、生徒とコミュニケーションをとることには慣れているので、より狂言を身近に感じていただけるのではないかとおもっています。		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名位まで
	ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準100分(休憩含む)</p> <p>①狂言についてのお話<10分> 狂言の歴史などについてお話します。</p> <p>②狂言クイズ<30分> 講師が狂言特有の発声や動きをするので、何をしているところか児童生徒は班に分かれて話し合い、答えをまとめ、代表者が発表するアクティブラーニングを行います。 <休憩10分></p> <p>③基本所作<20分> 狂言の基本所作である「かまえ(姿勢)」「立居」「歩く・走る」を体験します。</p> <p>④発声<15分> 狂言の笑い方や泣き方、動物の鳴き声などを体験します。</p> <p>⑤謡を謡う<15分> 本公演当日に演者と共演するために謡う、狂言「蝸牛」の謡を練習します</p>		
	その他ワークショップに関する特記事項等			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名	大蔵流狂言山本会	】
--------	----------	---

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件	(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。					
	会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量			A以上
	舞台設置面積	間口	7 m	奥行	4 m		
		高さ	2.5 m				
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	可		
	搬入間口の広さ	幅	m	高さ	m		
	遮光の要否	遮光要件なし		緞帳の要否		不要	
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		不要		
	搬入車両(トラック等)の横づけ	横づけ要件なし		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			m以内
	搬入車両の種類	ハイエース		台数	1 台		
	搬入車両の大きさ	車幅	1.9 m	車長	5 m		
備考	基本的にステージ上の公演を考えておりますので、ステージ上はものが無い状態か、ピアノなどがある場合は寄せていただけると助かります。また鏡板の幕を吊りたいので、バトンがあるとより良いです。バトンがない場合及びフロアでの公演の場合幕を吊らない事もあります。						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
	会場図面の提出要否		
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間 外 対 応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演					
	本公演					

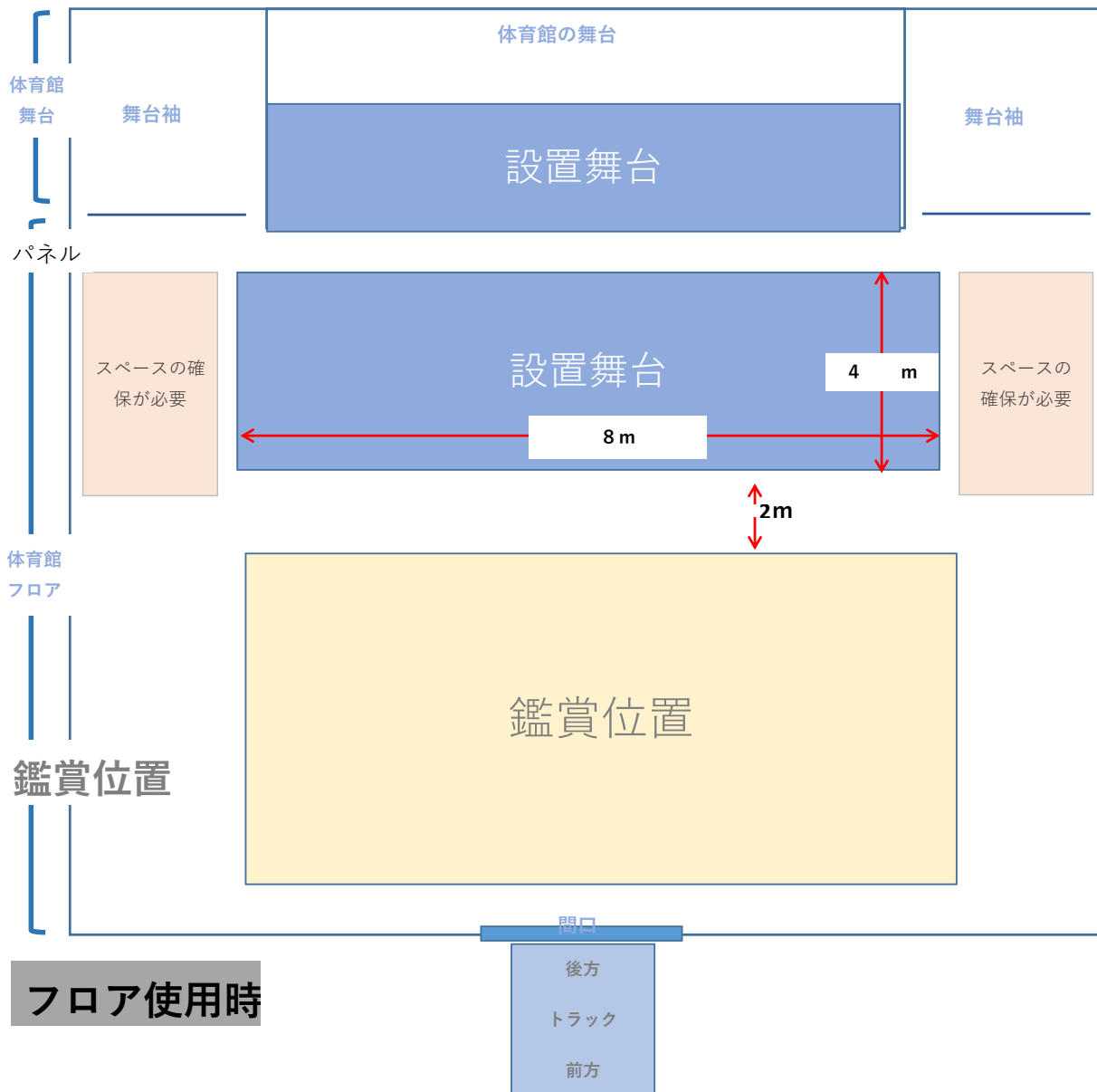
個別 確認 事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面



別添

なし

【公演団体名

大蔵流狂言山本会

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

能楽は650年以上前に大成されてから現代まで絶えることなく続いてきた、日本が世界に誇れる最古の芸能です。650年以上前に大成された芸能のため、今とは全てが違ふと思われがちですが、現代にも通じる部分が沢山あります。なぜなら、狂言は心理劇だからです。狂言は人間の愚かしさを笑いに包んで喜劇として描いています。時代は違えども人間が考えることは今も昔も変わりなく、その「笑い」が不変であるからこそ650年以上絶えることなく続いてきました。

しかし、狂言に出てくる言葉は現代語とかけ離れている上に、観客の想像力に頼るところが大きい演劇のため、鑑賞方法が分からないと理解できない部分が沢山あります。そういった特殊な鑑賞方法を子供たちが日常生活を送る学校で基礎から皆と一緒に学ぶことで、難しさ、堅苦しさ、分からないと思う固定概念を払拭し、次回から気軽に狂言を鑑賞できる環境作りをしたいと思います。

また狂言の本質的部分を深めて行く中で同時に自己肯定感も養えると思っています。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

生活様式が一変、数世代が同居する家庭が減少し、世代間交流が希薄になっている現代では、長年受け継がれてきた多くの日本古来の風習が廃れてしまっています。

共同住宅に住み、畳のない生活が当たり前になってしまっている子供たちが沢山いる中で、子供たちに「狂言の心」と題して、伝統的な日本の風習や考え方について、狂言を通して伝えます。先人の知恵や考え方は現代と切り離されたものではなく、連綿と繋がっていることを子供たちに理解してもらい、日本文化を未来に繋ぐ役割を自分たちが担っていくのだという、文化継承の気持ちを育てたいと思います。

メイン講師が子育て世代ということもあり、こどもとの距離をうまく取ることが出来るので、コミュニケーションを取りながら、能楽の良さを伝えていけるとと思います。

また今回は山本東次郎(人間国宝)に監修していただき、日本の伝統芸能の伝承の大事さを組み込んでいただきます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

弊会は昭和21年から学校公演を行っているので、学校公演のノウハウは芸と同じく伝承されています。ワークショップや本公演前には学校と密に連絡を取るようにし、重要事項については文章でやり取りをした後、思い違いがないよう口頭で確認をします。狂言は元々演者の人数が少なく、舞台装置もないので学校側をお願いすることは殆どなく、先生や学校への負担はありません。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

学習面では、教科書に狂言「柿山伏」が載っているものの狂言を観たことがなく、教えることに苦労している先生のために、2016年から大蔵流狂言山本家YouTubeチャンネルで「柿山伏」動画を5分割にし、1本2分以内にまとめて配信しています。1本の動画の長さが非常に短いので、子供も飽きずに観ることができ、公演前には予習として、公演後は振り返りとして継続的に狂言に触れる機会を設けています。また、この動画は手軽に狂言を観られるとあって、大学の授業でも視聴されています。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

弊会YouTubeチャンネルでは、現代語訳付の狂言や山本東次郎の解説などを配信しているので、これを機に他の狂言も見たいと興味を持った子供たちをフォローすることができます。公演の最後に質問コーナーの時間がありますが、その場で質問出来なかった子供たちのために、公演後も質問を受け付け、繋がりを持つようになっています。

また「則重則秀の会」の公式Instagram(<https://www.instagram.com/norishigenorihidenokai/>)もあり、若い世代に向け発信をしておりますので、継続的に狂言を身近に感じていただけたと思います。